

懐かしの風景



昭和30年頃の釈迦の

写真提供 井上孝博

「釈迦の池」界隈の思い出

私は子どもの頃から植田で育ちました。釈迦の池界隈について、今から約60年程前の思い出をお話します。



出島良子

昔の釈迦の池は、もっと大きく東西南北に広がっていました。東側には、沢山の桜の木が植えられていました。桜の咲く頃には「むしろ」を敷いてお弁当を食べたり、夏になると、7月の最初の日曜日には魚釣大会がありました。世話役さんが2、3日前に郡山の川魚問屋で魚を一時借り、近所の永井さんの魚も合わせて、前日に池に放します。魚釣り大会がおわりますと釣った魚や池の魚を川魚問屋にかえしに行きます。

今でもある浮身堂の下に「菱の実」が沢山あり、おやつ代わりに取って食べたり、夏には泳いだりして遊んでいました。

冬になると、池の水がなくなり池の真ん中が通路のようになるのです。そこを歩いて久保の豆腐屋さん、お菓子屋さんや玉井の魚屋さんがあり、買い物をして帰ったものです。

現在の植田集会所、農事センター、児童遊園地は、蓮池を半分潰して建っています。蓮池の南の方に「池の川」と言う田んぼがあり、その田に苗を植える時になると、毎年大雨が降り、苗は流されて、土は石みたいになってしまいます。なんか？硬いなと思うと「亀の甲羅」に苗を挿していたということがありました。水路は瞬間に増水して、流されそうになった、色々な思い出があります。

来迎寺の南側(しみず)の植田は綺麗な水が沸きます。今はありませんが、「しみず」と言う湧き水場があり、野菜を洗ったり、洗濯物をゆすいだりしていました。皆の集まる井戸端会議の場所でした。

稲植神社は、上田村(植田)の氏神さまでしたが、その内に南稲村にも氏子が出来て、稲植神社と命名されたようです。毎年7月14日は、祇園祭があります。お店が沢山出店されて、巫女さんが苗を供えて、今年も豊作になりますように、お払いをします。縁結びの神様とされています。

稲植神社の南東側に「ババラ池(すり鉢みたいなの池)」があり、池の真中は深く、北側では、エビガニを取ったり、南側の川(水路)ではカニやエビ、モロコを網で掬ったりしました。夏には友達と一緒に、泳いだりして楽しかったです。今は、精華台の新鮮野菜の売り場となっています。

畑の前公園の一带は昔は竹やぶ、畑、田んぼ、山でした。学研都市病院の入り口付近に灌漑用水用の四分六分の堰があり、水田に送る水の分け方で、菅井は四分、植田は六分と決まっていた。現在は、けいはんな記念公園入り口の散策路に『模型』があります。

田植えの時期になると、池の水が沢山水路に流れだし湧き水も沢山です。その水路ではドブ貝やシジミ、エビガニ、タニシなどが取れものです。春のお茶摘みの季節になると、野ウサギ、キジ、狸、狐がいました。

けいはんなプラザ付近は、昔は池が五つ程ありました。そのうちの永谷(ナガダン)池の半分利用して記念公園が作られました。

山では、松茸、シメジ、ワラビ、ゼンマイも沢山取れました。池の淵には、菖蒲や色々な花が咲いていました。

昔なつかしい思い出話でした。